

# やまぼうし通信

NO. 124 2021年10月25日

## コロナ感染症対策&仲田の森 特集号

新型コロナウイルスの感染者が急減し、9月末に緊急事態宣言が解除となりました。

しかし、感染再拡大に備えた対応を、より徹底していきましょう！！

【多くの市民団体に呼びかけ、日野市長への緊急要望書を提出しました。】

また、仲田の森に「桑ハウス」がリニューアル・オープンし、新たな市民活動が始まります！

## 障害者・子ども・高齢者の命と健康を守る緊急要望書

日野市長 大坪冬彦 様

2021年8月23日

日野市に新型コロナウイルス感染者の「宿泊療養施設」を早期に開設してください！

共同呼びかけ人

伊藤勲（NPO 法人やまぼうし理事長・ソーシャルファームミレットロード代表理事）

本村雄一（社福 創隣会理事長・日野市地域包括支援センターあいりん統括・日野市障害者自立支援協議会会長）

林幹高（NPO 法人福祉カフェテリア理事長・福祉カフェテリア介護支援センター） 坂本雄大（中央リハビリス

テーション エボルプ・日野市在宅介護事業者協議会通所分科会会長） 名取潮子（日野市障害者問題を考える会

代表・日野市障害者関係団体連絡会事務局） 高橋英興（医療法人共生会・ コミュニティネットワーク協会・共

生社会グループ代表） 村木國雄（日野精神障害者家族会・日野いずみ会会長）

### 要望書の骨子

日野市では、令和3年7月10日 日野市生活・保健センター で、「第1回日野市特措法新型コロナウイルス対策本部会議」が開催されました。そこで「緊急事態宣言に向けた対応についての協議」がなされ議事録も公表されています。しかし、その時点では、日野市独自の対応策は示されていませんでした。その後、事態は悪化の一途をたどっています。連日自宅療養者が増える中で、症状の急変や自宅（グループホーム含む）の感染拡大への懸念が高まっています。私たちは、国や都の対応や施策の立て直しを求めるとともに、日野市の公共施設を活用した一刻も早い「宿泊療養施設」の早期開設を緊急対応策として講じていただきたく、下記の通り要望させていただきます。

### 記

#### 1. 「自宅療養」対象者を受け入れる、日野市の「宿泊療養施設」の早期開設を求めます。

デルタ株の蔓延に伴い、「重症化が懸念される症状のある人」の救急搬送できる病院が満杯となり、救急車の搬送先がなく、自宅待機を余儀なくされている間に急死されるという悲劇が生まれています。そこで、「宿泊療養施設」の位置づけと運用の見直しが都の緊急課題となっています。国も「宿泊療養施設」で、「酸素ステーション」「抗体カクテル療法」を実施できる体制の整備と「入院基準の見直し」の検討に入るとしています。そうした動向を注視しつつ、日野市が自治体としての独自性を発揮し、「日野モデル」を創っていくことが求められています。

## ① 日野市生活保健センターの積極活用の可能性を検討してください



センターの3階の宿泊療養施設としての活用を、緊急対策として検討していたきたいと考えます。日野市の健康課と地域協働課が、市庁舎でなく生活保健センターが所在地となっていることは、「民間ホテル」活用とは異なる条件がすでに日野市にあると評価できます。公民協働を推進する「日野モデル」の一環として、「宿泊療養施設」を日野市の保健・医療・福祉のターミナルとして位置づけ、都の保健所や市立病院、市内の医師会や自治会、福祉関係団体の重層的な支援体制作りの拠点としてください。

## ② 「日野市ふれあいの森ホールの活用可能性」についても検討をお願いします。

ふれあいホールは「夢・文化・芸術・スポーツ・子育て・健康」による市民交流の拠点、防災の拠点として利用・活用できる複合施設です。市民の命と健康が危機にさらされている今、積極活用を検討すべきだと考えます。今回のコロナ禍は災害級の感染症といわれています。2階の各種市民交流スペース「コミュニティルーム」は、「宿泊療養施設」としての転用が十分可能な設備を有しています。また、調理室は、調理器具が全て完備されていて、「療養宿泊者」や「自宅療養者」への配食サービスの拠点として活用できます。



日野デリリカー事業とのタイアップを含めて検討願います。



施設概要 コミュニティ ルーム1 202㎡ コミュニティルーム2 187㎡ 調理室 調理台5台と様々な調理用具等を設置されています。

## 2. 先進的自治体の事例に学び、日野モデルを公民協働で作り出しましょう

～「コロナ患者の療養支援ネットワーク」の立ち上げを呼びかけます。～

### ① 日野市の「日野市在宅高齢者療養推進協議会検討部会」の役割に期待します。

平成25年度より、医療と介護の連携に特に関わりの大きい「日野市医師会」「日野市歯科医会」「日野市薬剤師会」「日野市訪問看護ステーション協議会」「日野市立病院」「日野市在宅介護事業者協議会」「ひのケアマネ協議会」「地域包括支援センター」の8団体の代表者と行政（日野市在宅療養支援課及び高齢福祉課）を構成員に定期的に活動していると報告されています。令和2年度は、年度当初から約2か月にわたって新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発出され、その後も外出や会合の開催が制限される恐れがあったことから、当初計画していた「連携推進勉強会」やイベント「ひの在宅医療・介護サービスフェア」の開催が足踏みしているとのことです。しかし、コロナ禍への対応の緊急性が高まっている今こそ、「療養宿泊施設」の立ち上げ支援について「多職種連携」による支援体制づくりを実践的に検討・実施していただきたいと考えます。

（以上内容の要望書を、日野市長と日野市議会議長にも陳情書として提出しました。）

私達の緊急要望書に対して、8月30日の午後6時半より、市長室で共同呼びかけ人6人と日野市萩原副市長・健康福祉部長・健康課長との2時間に及ぶ意見交換を行いました。また、市議会各派の皆さんとも個別に協議を重ねてきました。9月議会の審議を通じて、日野市の独自施策を含め、きめ細かな施策が順次実施されることになりました。

## 3. 緊急課題として実施・検討する課題となった主な事項（要約）

### 市議会での要望事項

宿泊療養施設の開設と市内感染者の急増に伴い自宅療養者が増加しており、安心して療養できる支援を行うこと

- (1) 訪問看護師を活用すること
- (2) 臨時医療施設を設置すること
- (3) 医師会を通じてパルスオキシメーターの貸出しをすること
- (4) 自宅療養者の健康観察について、コロナ診療に関わっていない市内の医療機関に更に協力を求めること
- (5) 生活物資を支給すること
- (6) ごみ出し支援等を行うこと
- (7) 電話やオンラインによる健康相談をすること
- (8) 適切な情報提供をすること
- (9) 自宅療養者支援のための専属チームを設置すること
- (10) 自宅療養者に置き配する食品は通常のセットと流動食を中心にしたものから選べるようにすること。

(1) 多摩地区 26 市長で構成する東京都市長会として、東京都へ要望書の提出を行い、市町村に対するワクチンの適正な供給と国への働きかけ、宿泊療養施設の設置や自宅療養者へのきめ細やかな対応のできる体制整備など、市民を守る仕組みの構築などを要望。(2) 日野市としても、自宅療養者向けの食糧支援やパルスオキシメーターの購入を行う。(3) 日野市医師会の協力のもと、かかりつけ医への自宅療養者専用電話の配備などを実施する。(4) 9 月 13 日から、子ども・保護者が安心して教育、子育てのサービスを受けることができるよう、学級閉鎖などを行ったクラスの希望者全員を対象に、日野市独自の PCR 検査を開始します。保育園や学童クラブなど子ども関連施設についても同様に開始します。



今後も第 6 波の襲来や、軽症で回復したが、味覚・嗅覚障害等の後遺症の長期化や、若者世代の感染拡大など新たな問題が深刻化しています。市民の命と暮らしを守る行動を継続しましょう！

## 「ふれあいの森」の活性化に向けての新たな事業企画の提案

NPO 法人やまぼうし・おちかわ屋とソーシャルファームミレットロードの共同提案 2021・10・15

先日、長年の懸案であった仲田の森の桑ハウスがリニューアルオープンし、「国有有形登録遺産」の指定をうけました。桑ハウスの歴史と今後に想いを馳せてみる機会です。そこから、ふれあいの森の新たな可能性を探り、ふれあいホールのカフェと新装桑ハウスが一体化して活性化する事業企画を提案します。

### 1, 桑ハウスと仲田の森を舞台に、養蚕の歴史と桑の豊かな生命力・効用を学び、活用しましょう！

現在のスポーツ公園一帯は一面の桑畑だったそうです。今ここに植えられている桑は、蚕糸の会の指導で、仲田小学校の児童たちが卒業記念として植え、また日野市の市制五〇周年記念の森再生事業の一環として仲田小学校の児童が参加して植えたもの

です。桑は関東地方に適する品種で、そのうち二種は蚕糸用ではなく、巨大な実をつける食用になる桑で、三年後にはジャム、ワインなども作れるとのこと。仲田小学校の子ども達は蚕を育てて繭をつくることに挑戦しています。昭和の初期から 50 年代までこの場所で桑の栽培、研究、品種改良や蚕の育種研究、品種改良の研究が行われて、日本の絹産業の発展に大いに貢献してきました。（『桑ハウス見学会報告』参照）こうした歴史を学ぶとともに、桑の実、桑の葉、桑の木など桑丸ごと活用する市民活動のあらたなうねりを作り出しましょう。この間、仲田の森で長年ユニークな子供の野外活動に取り組んでこられている「NPO こどもへのまなざし」や、ふれあいホール内にある「日野児童館」、桑の木の栽培に取り組まれている「蚕糸の会」の皆さんと話し合いを重ねています。

ふれあいホールには、「三世交流室」がホール開設時から設置されています。子ども・若者（障害者含む）・高齢者の三世代が共有できる活動プログラムを開発していきましょう。

ふれあいの森カフェでも「桑の葉そば」の商品開発を準備しています。「食とアートのマルシェ」を軸に、屋内外の多彩な活

国登録有形文化財 蚕糸試験場日野桑園第一蚕室 保存修理記念

川風のおくりもの  
日野に誕生した  
桑と蚕の研究所物語  
令和 3 年  
10/2(土)~12/12(日)  
会場 日野市立新選組のふるさと歴史館  
〒181-0016 東京都日野市神明4-18-1 電話: 042-583-5100 URL: http://www.shineer.jp  
開館時間: 9:30~17:00 (入館は 16:30 まで) 入館料: 一般 200 円 小・中学生 50 円 休館日: 月曜日  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場・開館時間を変更する場合がございます。ご来館前にHP等でご確認ください。

動の展開が期待されます。現在、この企画の実現に向けて、日野市の関係各課との協議を重ねています。産業振興課・障害福祉課・子育て支援課、緑と清流課、文化財保護課と個別の協議を重ねてきましたが、近日中に「検討協議会」（仮称）が設置される見込みです。日野市の「公民協働」の新たなうねりを創りだしましょう。

## 2. 仲田の森とふれあいホールとの一体的活性化に向けた具体的提案

### ①ふれあいの森カフェでの新規メニューの開発とオリジナルな健康食品の開発と販売活動に取り組みます。

やまぼうしとミレットロードは協働して、健康食材「桑の葉」を活用した、各種食材・メニューの開発と販売に取り組みます。

ア、桑の葉そばの製造・販売 イ、桑の葉茶の製造・販売 ウ、桑の葉パウダー入りのテイクアウト食材の製造・販売

### ②ふれあいの森テラスを市民憩いの場として開放し、ふれあいの森での多面的な市民交流を進めます。

コロナ禍によって、館内のカフェ利用が長期に使用できない状況が長期化してきました。このままでは事業所閉鎖を余儀なくされる事態を迎える状況となり、本年4月より森に面したテラス席の設置を日野市に要望し実現してきました。また、カフェスペースを、ギャラリーと房として活用させていただいてきています。この対応は、やまぼうしの利用者の三密解消策としてもとても有意義のものとしています。また、散策に訪れる高齢者や親子連れの方々にも、大変好評です。これまで、大規模スポーツイベントに偏重しがちでしたが、市民層を主客とするメニューに移行してきています。

### ③貴重な共有財産である仲田の森とふれあいホールを一体的に活用する方策

ア、既にやまぼうしが参画してきている「用水守活動」での日野用水の清掃・保全活動を継続。

イ、三世代交流室と桑ハウスを有効活用し、桑の今日的活用。(桑の皮を利用した和紙づくりや行燈などの製作)

ウ、桑ハウスの管理運営への市民参加の方策を検討。(入口スペースでの即売工芸コーナーと市民参加での受付・清掃活動)

エ、日野児童館や日野社協、地元地域包括支援センターとの連携を深め、多世代交流型の地域イベントの開催を企画。

オ、従来型の体育館など屋内避難所とは別に、屋外での少人数単位の「共生型避難所」を設置。「災害時用ソーラパネル」

「バイオマストイレ」「組み立て式ミニハウス」等の配置の検討。



永年 やまぼうし平山台の管理者として活躍されてきた、木村佳子さんが、退職される事となりました。多機能型事業所平山台が直面してきた数多くの困難な課題に真摯に向き合い、利用者の皆さんの仕事と暮らしを支えるために献身的な努力を重ねていただきました。

ありがとうございました。改めて感謝の意を表します。

理事長 伊藤 勲

尚、後任には、管理者に細川学さん、サービス管理者に田野由香さんが就任されました。

よろしく お願いします。

《事業資金カンパへのご協力に感謝申し上げます。引き続きご協力お願いします》

寄付者名簿 2021年4月～9月30日

大口寄付：長谷川和子会費：田畑恵・松岡禮子・金岡里枝・小嶋航・土方幸生・土方健一・岩下純子・市川悦子・吉開友耶・吉開房代・千野薫・伊藤勲・伊藤陽子・佐藤ひろみ・加藤陽介・伊藤泰二郎・藤塚優理子・工藤里花・山本英巳子・春口明朗・小木曾寛治・河合琢磨・木村佳子・上原節・藤内昌信・田中正和・小林るりか・徳井潤・中島嘉宏・水流尚子・伊藤和美・石谷典子・近藤芽生・荒井康子・長谷川和子・小池祥雅・柴崎知子・平和史・仲島美代子・山田八千代・山田由美子・堀越香津子・鶴田曉彦・伊藤佳織・荻野由絵・坂元幸子・坂元陽子・内田栄・青木亮・澤谷利雄・澤谷秀信・幡野裕之・今野秀昭・屋代詩織・村川清美・増島恭子・大塚潔・峯本まり子・藤野達也・藤野明子・飯田真二・金岡真三子・菊池益生

寄付：田畑郁子・中井久雄・金岡里枝・佐野幸利・岩下治雄・東深沢哲・伊藤勲・伊藤陽子・佐藤ひろみ・工藤里花・木村佳子・藤内昌信・山田卓・熊谷亜由美・㈱リフォハウス・太田善基・中島嘉宏・浅野史枝・石谷典子・近藤京子・川端邦彦・小池祥雅・㈱シップス・谷内久子・柴崎園男・柳井喬文・佐藤信行・椎名美弥子・金岡真三子

振込先 ゆうちょ銀行 9900 店番019 当座 0123984

特定非営利活動法人 やまぼうし 【郵便局 記号00100-7

番号 123984 特定非営利活動法人 やまぼうし】

発行元 認定NPO法人やまぼうし

〒191-0062 東京都日野市多摩平2-12-2

Tel 042-581-7946

Fax 042-514-9507

E-Mail [info@yamabousi.org](mailto:info@yamabousi.org)

URL <http://yamabousi.org/>